



平成 29 年度 JICA アフリカ地域市場志向型農業振興（行政官）（B）研修

– JICA Market-Oriented Agriculture Promotion for Africa (Planning and Management) (B)

研修期間：平成 29 年 11 月 6 日（月）～ 11 月 17 日（金）（2 週間）

研修場所：神戸市

研修内容：日本の農作物流通システム及び農業普及システムに関する講義／視察
ケニアで実施された「小規模園芸農民組織能力強化計画プロジェクト」導入
に向けた政策・活動計画立案のための演習

参加研修員：17 名

（ガーナ 2、マラウイ 2、ナイジェリア 2、南スーダン 2、ルワンダ 2、
ウガンダ 2、タンザニア 1、ケニア 2、モザンビーク 2）



研修最終日閉講式にて終了証書の交付。

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)から委託を受けて、11月に「アフリカ地域市場志向型農業振興（行政官）」研修を実施しました。今回も神戸市内の多くの農業関係機関にご協力いただき、アフリカの研修員一行17名が農家と農作物流通の現場及び日本の農業を支える営農普及制度や仕組みを学びました。



アフリカでは、農業が主要な産業です。特にケニアの

農業においては、市場に出回る農作物の75%以上が小規模農家によって栽培・出荷されていますが、小規模農家はマーケットの情報収集と栽培計画の知識が不足していたため、収入が少ないのが現状でした。このような状況の中で、JICAはケニアでの農業従事者の所得向上と生活改善を図るため、2006年～2009年にかけて農家自らが市場志向型農業を実践するための各種支援活動(SHEPアプローチ)を行い、支援対象農家の収益が2倍以上になるという大きな成果を上げました。この成果を広めるために日本での研修を開始してから4年を超え、そのSHEPアプローチはアフリカ地域で20か国以上のみならず、アジア、中東、中南米にも広がっています。



アフリカの研修員が日本の流通の仕組みを学ぶため、日本の小売大手「イオンモールの神戸南」の野菜売り場を視察



～研修を振り返って～

約 153 万人の人口を抱える大都市である神戸は、西区・北区に広大な農地を持ち、稲作や野菜・果物等の栽培が行われています。消費者の近くに生産地が存在する都市近郊型農業が神戸市の農業の特徴であり、これにより、私たち消費者は、地元で採れた新鮮な作物を手に入れる事ができています。

研修実施当初の研修員は、農林水産省などの国・地方の行政官がほとんどでしたが、研修を重ねる度に、現場レベルの普及員が増えています。2 週間という短い期間の中、農作物の栽培から出荷、販売に至るまでの、日本の農家や農業関係機関、企業が行っている様々な工夫や努力を学びました。アフリカでは、現場で普及員が農家に SHEP アプローチを広げており、普及員が日本で多くのエッセンスを学んだことは現地で伝える際、多くの説得力を持つことでしょう。

この研修は、アフリカ地域を対象にしたものですが、アフリカでは、各国の農作物流通や農業普及の形は様々です。その中でも、栽培した作物がバイヤーなどに安く買い叩かれ十分な収入を得られていない、農業普及員と農家との関係が上手く構築できていないことなど、各国で類似の課題があります。こうした課題に対し、農家の収入が上がらない原因の一つである情報の非対称性について講義をした上、農作物の栽培から出荷、販売などの流通の仕組み、行政機関から農家への情報伝達と支援の方法、農業関係者の様々な工夫及び農業推進の政策、販売促進イベント企画などの講義及び視察を重ねました。

情報の非対称性の緩和及び日本の流通の仕組みを研修員によりよく理解してもらうため、平成 29 年 6 月に開業した「イオンモール神戸南」の視察も取り入れました。午前中の中央卸売市場(せり・仲卸業等)の見学の後に、イオンモールで販売されている神戸市中央卸売市場本場から調達された新鮮な野菜、果物及び魚介類の売り場を視察しました。野菜売り場に置いてある生産者の写真と生産地及び商品を紹介しているポップを見て、研修員が日本市場の透明性、生産者が消費者との信頼関係の工夫などについて、理解を深めたと思います。

週末には、来日されている研修員に日本の文化と歴史を知ってもらうため、日本最古の木造建築で、世界遺産となった法隆寺と世界最大級の木造建築物の東大寺の見学を実施しました。

その他に、研修員にこの研修への興味を高めるため、今回も SHEP アプローチをゲームで学び、ゲームアプリ「Fun Fun Farming」をプレーする時間も設け、研修員がグループ

に分かれ、興味津々に取り組みました。研修最終日、研修員からアクションプランが発表され、研修中学んだ知識とノウハウが十分に反映された内容であると実感することが出来ました。

今回も明るい性格の研修員が多く、講義のあと、講師へのお礼として研修員の代表によりアフリカ独自のやり方 Asante sana が行われ、場の雰囲気盛り上がりしました。(Asante sana とは、日本の三本締めと似ていますが、拍数が「3 回・3 回・3 回・1 回」となっていて、最後の 1 回は全員の手が感謝される側のほうへ向かうと同時に大きな声で Asante sana を言うやり方)



アフリカ研修員がグランメールにてヘルシママー SUN グループが用意された野菜中心のランチを美味しく頂きました。



神戸の綺麗な港風景が思い出となります。

今回研修に参加したアフリカの国々の小規模園芸農家で、今回日本の農業から学んだ「市場を知り、農業で稼ぐ」という意識が浸透していき、所得向上、生活レベルの改善につながっていくことを期待しています。

委託元機関：独立行政法人国際協力機構（JICA）関西国際センター

協力機関：神戸市 経済観光局農政部 農水産課／JA 兵庫六甲神戸西宮農総合センター／兵庫県 神戸県民センター 神戸農林振興事務所 神戸農業改良普及センター／神戸市中央卸売市場本場／神果神戸青果株式会社／京都大学／山梨学院大学／有限会社 ヘルシーママSUN／イオンリテール株式会社／イオンモール神戸南/KM 工房 NiiSECI/ 有限会社アイ・エム・ジー／歴史街道推進協議会（順不同、敬称略）

